

# オフィス勤務 再開のベスト プラクティス

生産性と安全性を兼ね備えたハイブリッドワーク  
モデルを実現するためのワークプレイス設計ガイド

# 目次

01

---

今後も続くハイブリッドワーク

02

---

オフィスの進化

03

---

ハイブリッドワークを実現するオフィスの再設計

04

---

ワークプレイス設計のベストプラクティス

05

---

安全なオフィス勤務の再開

06

---

安全なワークプレイス設計のベストプラクティス

07

---

今すぐ始める

# 今後も続く ハイブリッドワーク

コロナ禍を避けてテレワークを続けている間、職場に対する私たちの期待は進化しました。

コロナ禍の最中、私たちは、テクノロジーを活用して同僚や友人とのつながりを維持していました。この困難な時期を経て、私たちの多くは、新しい趣味を取り入れたり、友人や家族と再び連絡を取ったりするなど、時間が空くことでできることの重要性を認識しました。従業員は、このような柔軟な働き方を手放したくはなく、91% が、今後リモートワークまたはハイブリッドワークを続けたいと考えています。<sup>1</sup>

それでは、ハイブリッドワークの時代において、オフィスはどうあるべきなのでしょう。どこからでも仕事ができるようになると、オフィスに対する考え方や、従業員がオフィスにいるときに必要な機能が根本的に変わります。

Webex は、世界中の組織がハイブリッドワークの時代に適応できるようサポートします。このガイドでは、オフィスがどのように進化し、従業員が戻ってきたときにどうすれば最適なサポートができるかを示します。



# オフィスの進化

コロナ禍以前は、ほとんどのビジネスパーソンにとって、オフィスにいたことが当たり前でした。

オフィスは、同僚とつながってコラボレーションする場所であり、もっと言えば、そこにいたことが当然と考えられていた場所でした。しかし、リモートワークが進むにつれて、企業は、チームが分散することで生産性が著しく低下するわけではないことに気づきました。

しかし、それでもオフィスに行くことには何らかの意味があるのです。

## 従業員がオフィス勤務の再開を望む理由

チームメンバーと直接会って仕事したい

60%

新しい同僚と会いたい

46%

創造的なコラボレーションに参加したい

44%



## ハイブリッドワークモデルにおけるオフィスは、従業員が充実したコラボレーションに参加したり、同僚との信頼関係を構築し、職場の文化やコミュニティに触れたりするための中心的なハブとして機能します。

ハイブリッドワークモデルの定義では、従業員は交代でオフィスに出勤することになります。その結果、同時にオフィスにいる従業員が少なくなり、オンラインでのコラボレーションが増えます。そのため、物理的なスペースを見直すことで、従業員のエクスペリエンスを高めて生産性を向上させながら、コストを削減できます。

しかし、オフィス勤務を再開するには、まず安全性を確保する必要があります。コラボレーションハブとしてオフィスを設計する場合、従業員が安全な環境にいることを確信できなければなりません。また、安心してオフィスに戻ってもらうためには、オフィスのポリシーと安全ガイドラインを従業員に理解してもらうことも必要です。

## オフィスに変化をもたらす 主な傾向

### 企業

従業員の柔軟な働き方を強化する



77%

ハイブリッド環境でコラボレーションできるように、ビデオ対応のスペースを増やす



97%

オフィスに予約制のデスクを増やす



93%

### 従業員

職場の安全性を  
高めてほしい



97%

共有のオフィス  
デバイスに触れる  
ことが心配



64%

『ハイブリッドワークの時代に向けて』 Dimensional Research 社、  
2021年9月

[詳しくはこちら](#)

# ハイブリッドワークを実現する オフィスの再設計

オフィスを再設計するには、慎重な戦略と計画が必要です。各スペースで行う活動と目指す成果を考慮しなければなりません。スペースの主な利用目的が、集中する活動、社交的活動、学習、コラボレーションのいずれなのかを検討する必要があります。

部屋の大きさ、設備、テクノロジー、デザインなどの要素を考慮して評価し、各スペースの目標に沿っているかを確認する必要もあります。各スペースを、従業員の生産性と安全性を最適化する原動力として考える視点が大切です。スムーズなコラボレーションプロセスを確立する秘訣は、デスクでも、ハドルームでも、会議室でも、一貫したエクスペリエンスを提供することです。

ハイブリッドワークモデルによって本当にビジネスを変革するためには、物理的な空間と仮想空間でのエクスペリエンスが融合する必要があります。そして一日を通して従業員をサポートするためには、テクノロジーが必要です。目標とする成果に合わせてスペースを設計し、従業員が毎日使用するアプリケーションと簡単に連携できるコラボレーションデバイスを設置します。共有のコラボレーションデバイス、予約可能な会議室のビデオエンドポイント、オープンなコラボレーションエリアのアイデアボードなど、スペースに入れられ、簡単に作業を開始できることが重要です。

**オフィス戦略の一環として、以下のことを検討してください。**

- ・ オフィスに入る人の数をモニターする方法
- ・ オフィスでデスクが空いているかを従業員が知る方法
- ・ ワークスペースを簡単に予約して移動する方法
- ・ 従業員がオフィスにいても自宅にいても、使い慣れた一貫した方法でコラボレーションする方法
- ・ スペースの使用方法（および頻度）に関する情報など、スペースを常に最適な状態に保つために必要なデータを取得する方法
- ・ 会議室や作業スペースが最適な状態であることを確認し、健康的で魅力的な環境を構築する方法

**オフィススペースを再設計するためのヒント：**

- ・ 目標とする成果が得られるようにスペースを設計する。
- ・ スペースにコラボレーションデバイスを設置して、オフィスとリモート環境を結びつける。
- ・ 従業員が毎日使用するアプリケーションとデバイスを簡単にペアリングできるようにする。

# ワークプレイス設計の ベストプラクティス



簡単に部屋を予約し、空いているスペースを見つける方法を配備



ストレスなく利用できる共有デスク



デスクや会議室にビデオデバイスを設置



シームレスなコラボレーション体験の提供



オフィスの最適化



## 簡単に部屋を予約し、空いているスペースを見つける方法を配備

ハイブリッドワークモデルに移行するにあたって、従業員が利用できるワークスペースを見つけたり、コラボレーションするためのテクノロジーが必要になります。オフィスの再設計では、共有デスクを追加し、会議室のデザインを見直します。同時に従業員が空いているスペースを簡単に見つけたり、予約できたりする機能も用意しなければなりません。

部屋の予約機能と経路案内テクノロジーをコラボレーションデバイスに組み込むことで、従業員は、空いているデスクや会議室をすばやく検索して予約できるようになります。また、部屋の外に LED ライト付きの壁掛け式デバイスを設置することで、どの部屋が空いていて、どの部屋が使用されているかを簡単に確認できます。

[詳細はこちら](#)



## ストレスなく利用できる共有デスク

組織の 93% がオフィス内に予約制のデスクを増やしています。これらのデスクは、個人のデスクと同じように、従業員の生産性を確保するために必要なすべての機能を備えている必要があります。

共有デスク用デバイスを利用すれば、QR コードをスキャンする、ラップトップやスマートフォンを接続するといったことだけで、誰でも空いているデスクを自分のワークスペースとして利用できます。サインインすれば、ボタン 1 つで会議に参加することも可能です。また、会議カレンダー、最近の通話、お気に入りのアプリなどが、すべてデスクのコラボレーションユニットに統合されます。

モバイルでコラボレーションする現代の従業員は、このような俊敏性を強く望んでいるため、組織は、オフィス全体でこれらのエクスペリエンスを提供することを目指す必要があります。

[新たな体験を確認する \[英語\]](#)





## デスクや会議室にビデオデバイスを設置

フルタイムでオフィス勤務に戻ると言っている従業員は、わずか 9% です。そのため、これからのコラボレーションは全員が同じ部屋にいるとは限りません。

デスクから会議室まであらゆるスペースにビデオ会議デバイスを設置し、どこでもスムーズに会議を開催できるような高品質な体験を提供する必要があります。また自宅で仕事をしている人については、同じテーブルで会議に参加しているように感じられなければなりません。

組織がこれらのスペースの生産性を確保し、全員がオフィスにいるかのようにコラボレーションするには、周囲のノイズ除去機能、インテリジェントカメラ、ワイヤレス共有機能、デジタルホワイトボードなどが重要です。

[ビデオを観る](#)



## シームレスなコラボレーション体験の提供

多くの場合、コラボレーションして作業するには、複数のアプリ、デバイス、場所が必要になります。

オフィスやオンライン環境を含めてあらゆる場所で作業が行われているため、従業員は、自宅からデスクや会議室に至るまで、どこでもシームレスに仕事できなければなりません。

メッセージ、会議、電話、コンテンツ共有、多様なスペース間でのコラボレーションといった高機能で使いやすいコラボレーション体験を従業員に提供することが、ハイブリッドワークの実現には必要です。

どこにいても同じ体験で作業できるようになっていれば、円滑なコラボレーションが可能になります。常に信頼できる高品質のソリューション、使い慣れた UI、始めてでも使いやすい機能を提供して従業員をサポートすることが、ハイブリッドワークの目標を達成するのに大いに役立ちます。

[ソリューション概要を読む](#)





## オフィスの最適化

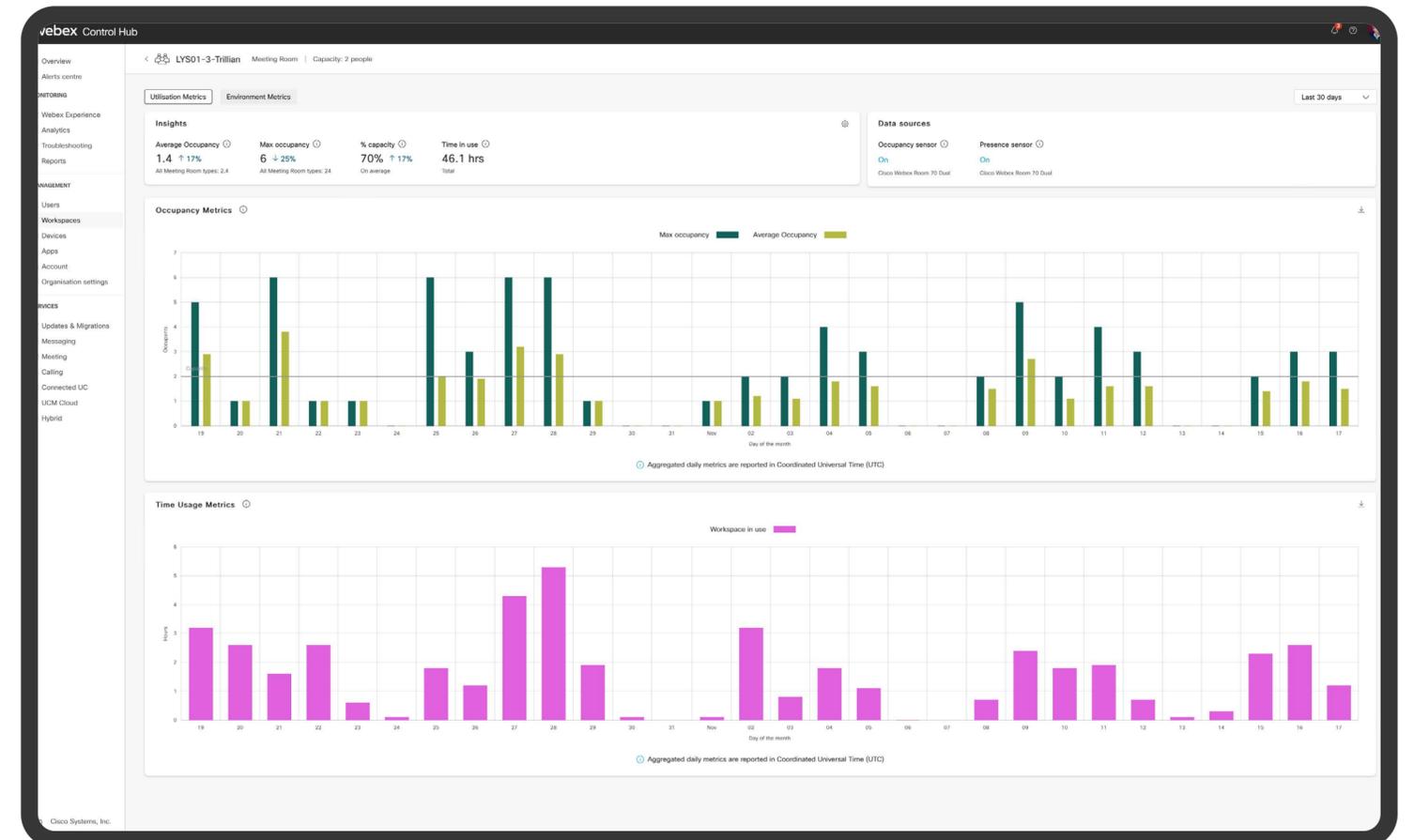
オフィスを再設計する際には、慎重に計画する必要があります。なかでも、従業員がオフィススペースをどのように利用しているかを理解することが、ハイブリッドワークに移行する上でより重要です。

組織は、部屋の使用状況を分析してインサイトを得ることで、スペースが使用されている頻度や、そのスペースで行われているアクティビティのタイプをより正確に把握できます。

インテリジェントセンサーを利用すれば、ビデオ会議デバイスのカメラ、マイク、スピーカーの機能を拡張し、会議室での人の動きや人数を検出できます。インテリジェントセンサーは、デバイスの操作だけでなく、会議室のすべてのアクティビティをリアルタイムで分析します。

[詳細はこちら](#)

分析機能を利用することでデータに基づくインサイトが得られ、スペースを継続的に最適化し、会議室で行われているアクティビティが目的に合っているかどうかを把握できます。また、従業員がオフィスで行っていることをさらに詳細に把握し、オフィスのキャパシティをより適切に計画することも可能です。



# 安全な オフィス勤務の再開

オフィス勤務を再開するための次の段階では、従業員の安全を確保するための新しいルールやポリシーを定め、新たなテクノロジーを導入する必要があります。

安全を確保するために、ソーシャルディスタンスの適用、ワクチン接種記録の提示、マスクの着用、頻繁な消毒、建物の人数制限などの対策が求められる場合があります。

これらの対策は、リスクを軽減するだけでなく、オフィスに戻ることに對する従業員の不安を和らげるのにも役立ちます。

最近の調査によると、従業員の 92% がオフィスに戻ることに不安を感じていて、97% が、オフィス勤務を再開する前に職場環境を変更することを雇用者に望んでいます。

# オフィス勤務再開にあたっての 主な懸念事項



部屋に人が多すぎてソーシャル  
ディスタンスを確保できない



共有デバイスに触れなければなら  
ない



職場の安全性を高めるための変  
更が行われていない



リモートの同僚とコラボレーショ  
ンできるかが心配



オフィスの新しいルールを理解し  
なければならない



オフィスが最後にいつ消毒された  
かがわからない

# オフィス勤務再開戦略の 一環として、以下のことを 検討してください。

- ・ 従業員が共有スペースに入る前に健康状態を確認する方法
- ・ すべての従業員がガイドラインを把握していることを確認する方法
- ・ 最近どの部屋が利用され、消毒されたかを従業員に知らせる方法
- ・ 部屋に人が多すぎてソーシャルディスタンスを確保できない場合に、従業員に通知する方法

# 安全な ワークプレイス設計の ベストプラクティス



## 従業員向けデジタル受付機能の設置

- ・ スムースなチェックイン機能
- ・ 仮想受付システム
- ・ デジタル健康調査機能
- ・ デジタルサイネージによる通知機能
- ・ オフィス利用状況のモニタリング機能
- ・ ゼロタッチエクスペリエンス機能



## 職場の安心 / 安全が最優先

- ・ 部屋の消毒状況を従業員に知らせる機能
- ・ 部屋の利用状況をモニターして警告する機能
- ・ 環境の状態をモニターする機能
- ・ 緊急時に警告する機能

# 従業員向けデジタル 受付機能の設置

受付は、安全にオフィス勤務を再開するにあたって、どのような対応をしているかを示す場所となります。

デジタルサイネージ、仮想受付、カスタム Web アプリを用意することで、従業員やゲストが入室する際に対応できます。リモート受付システムを利用すれば、迅速に安全ガイドラインを示し、健康状態を調査して、訪問者を迎え入れられます。また、その日利用可能なスペースを見つけるのをサポートしたり、その場所への行き方を示したりすることもできます。

新たな体験を確認する





## スムーズなチェックイン機能

オフィスの訪問者は、ビデオ会議ディスプレイを利用してチェックインし、登録ワークフローを開始します。そしてフローに従って写真を撮り、到着したことを従業員に連絡します。

ディスプレイを入館証スキャナやプリンタに接続して、ゲストに入館証を提供することもできます。オフィス勤務再開の段階は、組織によって異なっていて、受付が無人のままのところもあるため、訪問者管理ソリューションを利用することで、訪問者の詳細情報とオフィスへの出入りの流れを管理できます。

[詳細はこちら \[英語\]](#)



## 仮想受付システム

仮想受付は、オフィス内の受付よりも安全です。従業員やゲストが疑問を抱えていたり、問題が発生したりしている場合は、リモートの受付係と簡単に接続して解決できます。

[オフィスの様子を見る \[英語\]](#)



## デジタル健康調査機能

組織の中には、従業員や訪問者が共有スペースに入る前に、健康チェックや健康調査を行うことを予定しているところもあります。カスタム Web アプリを使用すれば、従業員は、スマートフォンや受付にある他のデバイスで、到着時に健康状態や接触履歴に関する調査を簡単に受けられます。



## デジタルサイネージによる通知機能

受付のデジタルサイネージ機能によって、重要な安全上の注意事項を示し、従業員にオフィスのガイドラインを提示できます。また、オフィスの利用状況を示したり、チェックイン方法やワークスペースの検索方法に関するガイドを提供したりすることも可能です。

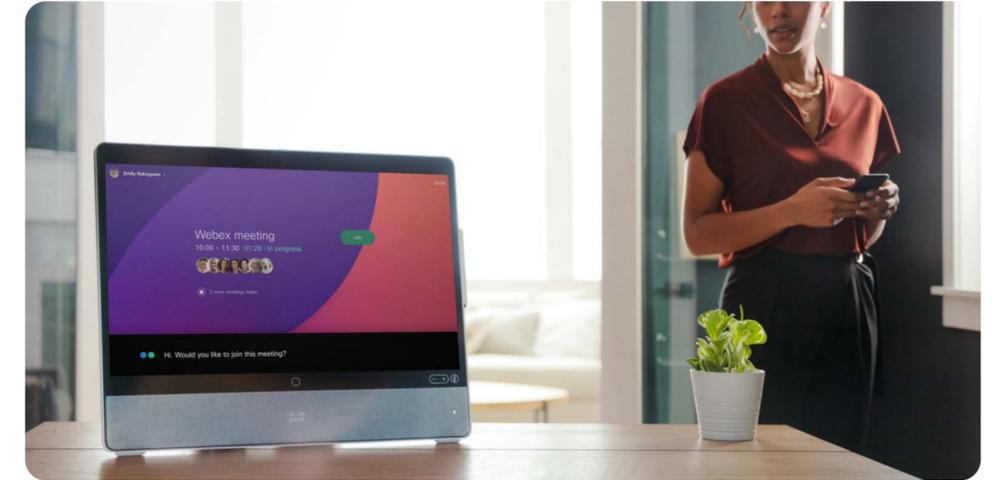
[ビデオを観る](#)



## オフィス利用状況のモニタリング機能

オフィスの利用状況を常にモニターすることで、密になるのを防止できます。センサーを利用すれば、オフィスの利用状況に関するデータをリアルタイムに施設管理チームに提供できます。また、デジタルサイネージでその情報を従業員に示し、職場の安全に関する懸念を解消することも可能です。

[詳細はこちら](#)



## ゼロタッチエクスペリエンス機能

従業員が共有デバイスに触れてウィルスが拡散することを心配しているため、オフィスにデジタルアシスタントが必要です。たとえば、オフィスの入り口にいるデジタルアシスタントは、デバイスに触れずに作業スペースを見つけたり、仮想受付に連絡したりするのに役立ちます。

[詳細はこちら \[英語\]](#)

# 職場の安心 / 安全が最優先



安心 / 安全な作業環境を提供することは、受付だけの問題ではありません。

ビデオ会議デバイスのインテリジェント機能を活用することで、あらゆる空間で安心 / 安全を最優先にして確保できます。

人の数、デバイスの使用状況、温度、湿度、空気の質などをセンサーやデバイスの AI (人工知能) を活用して分析することで、IT 部門、人事部門、施設管理者が、環境の状態や利用状況を詳細に把握し、最適化できます。ただし、オフィス環境を正しく見直すには、信頼できるデータだけではなく、従業員に通知し、ユーザーに正しい行動を促す方法も必要です。

ビデオ会議デバイスは、従業員に情報を提供し、職場の安全をインテリジェントに確保するために必要なマン / マシンインターフェイスとして利用できます。

たとえば、部屋が密になっていてソーシャルディスタンスが確保できない場合、ビデオ会議ディスプレイがその状況を通知し、十分なスペースがある最も近い部屋を案内します。このように進歩したテクノロジーを利用することで、オフィス環境をインテリジェントなスペースに変えられます。

[詳細はこちら \[英語\]](#)

ビデオデバイスのインテリジェント機能を活用することで、すべてのスペースの安心 / 安全を最優先にして確保できます。



## 部屋の利用状況をモニターして警告する機能

ソーシャルディスタンスの確保が引き続き奨励されているため、部屋の収容人数をモニターして、全員が安全に入れるだけのスペースがあることを確認する必要があります。

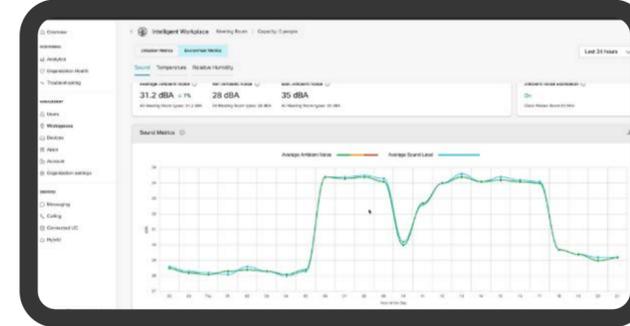
ビデオ会議デバイスの顔認識センサーは、従業員がマスクを着用している場合でも機能し、部屋にいる人数をカウントして、定員を超えると自動的に画面に通知を表示するようになっています。通知が表示されたら、グループの一部を別の会議室からリモート参加させるなど、必要な調整を行うことで、ソーシャルディスタンスを確保できます。経路案内機能と組み合わせれば、ビデオ会議デバイスで QR コードを生成し、近くで利用できる別の部屋を簡単に提示できます。

[実際の働き方を見る](#)



## 緊急時に警告する機能

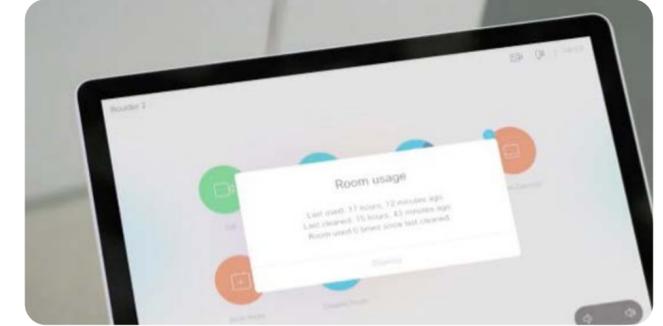
緊急時には、テクノロジーを利用して、従業員の安全を確保できます。たとえば、建物内で火災警報が鳴った場合、ビデオ会議画面にデジタルサイネージを表示して、従業員が最も安全にすばやく建物から避難できる方法を示せます。さらに、ビデオ会議システムのカメラを利用して、まだ人が残っている部屋を消防隊員に知らせることもできます。



## 環境の状態をモニターする機能

温度から空気の質まですべてに注意を払いながら、作業環境の安全性と生産性を最大限に高められることが重要です。センサーを備えたビデオ会議システムは、部屋の人数を数えるだけでなく、部屋の環境状態をモニターするのにも役立ちます。温度、湿度、空気の質は、IT 部門や施設管理者に提供されるセンサーデータのほんの一部ですが、そのデータを利用することで、必要に応じて環境を最適化できます。

さらに、部屋の利用状況に関するアラートのように、環境指標のいずれかが、事前に設定されたしきい値から逸脱した場合、従業員に通知して別のスペースに誘導することも可能です。



## 部屋の消毒状況を従業員に知らせる機能

部屋が最後に使用された日や消毒された日を従業員に通知することは、オフィスが安全だと感じられるようにするために重要です。間違いが発生しやすいドアにかけてある消毒状況表で人間が情報を提供する代わりに、ビデオ会議デバイスを活用して自動的に通知できます。

消毒スタッフは、ボタンをタップするだけで部屋が消毒済みであることを記録できます。また、人数カウントセンサーを利用して、最後に消毒されてから何人がスペースを利用しているかをトラッキングできます。これらすべての情報は、デジタルサイネージを介して従業員と共有できるため、従業員はその情報に基づいて、会議する場所や作業場所を決められます。

# 今すぐ始める

ハイブリッドワーク環境をサポートすることは、もはや選択の余地はなく、必ず実施しなければなりません。

この新しい時代におけるワークモデルは、生産性や従業員の満足度を高める可能性があります。慎重に計画する必要があります。従業員の意見を聞きながら、適切なテクノロジーを導入し、新たなインサイトに基づいて継続的に調整していくには、明確な意思が必要です。

今こそ、オフィスをどのように進化させるかを計画し始めるときです。コンセプト実証を行い、さまざまなビデオ会議デバイスや機能を試してみてください。インテリジェントアラート機能や、タッチレスエクスペリエンスを実現するデジタルアシスタント機能をテストできます。その際、最も重要なことは、フィードバックを収集することです。結局のところハイブリッドワークプレイスとは、従業員が安心/安全に、そして効率的に仕事できるようにサポートする場所です。

# Webex がお客様をサポート

職場環境の安全性を高め、ハイブリッドワークプレイスに安全に移行できるようにサポートします。

[ワークスペースについて確認 \[英語\]](#)

[お問い合わせ](#)

© 2022 Cisco and/or its affiliates.

All rights reserved. Cisco, Cisco のロゴ、Webex by Cisco、Webex は、米国およびその他の国々における Cisco およびその関連会社の商標または登録商標です。シスコの商標の一覧については、シスコ Web サイトの商標ページをご覧ください。記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。「パートナー」または「partner」という用語の使用はシスコと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(2203R)

